

# メータオ・クリニック支援の会（JAM）

## 会報メール 第118号

[2020年2月発行号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。

JAM 会報メール第118号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動を2カ月に一度、会報メールにて発信しております。  
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

[【再度のお知らせ】会員更新のお願い](#)

[現地（メソト）から](#)

[国内から](#)

[国境の医療者 全国の書店で絶賛発売中！](#)

[編集後記](#)

[次号の予定](#)



## 【再度のお知らせ】賛助会員の皆様へ 会員更新のお願い

平素よりメータオ・クリニック支援の会（JAM）の活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。すでに更新の手続きを多数の方々に済ませていただき、誠にありがとうございます。

当会は賛助会員の更新時期を年末に揃えさせていただいております。

これまで同様、引き続きご支援を賜りたく、ご賛同いただける方は下記の要領にて会員更新の手続きを宜しくお願いいたします。

更新の対象となる皆様には、昨年末に JAM オリジナルカレンダーをお送りした際にご案内の文書を郵送いたしました。ご不明な点は、事務局 ([support@japanmaetao.org](mailto:support@japanmaetao.org)) までお問い合わせください。

**更新の対象となる方：令和元年6月以降にご入会いただいた皆様の会員期間は、令和2年12月末ですので今回の更新手続きは不要です。**

それ以外の方で賛助会員費のご入金手続きが令和2年1月末までにお済みでない方は、会員期間は令和元年12月末をもちまして終了となりました。

更新いただける場合は、お手数ですがお手続きをお願いいたします。

更新後の会員期間は**令和2年12月末まで**となります。

まだお手続きがお済みでない方も、引き続き、賛助会員としてご支援いただけましたら大変有り難く存じます。手続きの方法は下記のとおりです。どうぞよろしくようお願いいたします。

なお、更新を希望されない方につきましては、手続きはご不要です。またご支援いただける機会をお待ちしております。

### 賛助会員 更新手続き（年会費入金）の方法について

■下記の年会費をお振込みください。

ホームページ ([www.japanmaetao.org](http://www.japanmaetao.org)) からクレジットカード決済も可能です。

「あなたとできること」→「賛助会員になる」の下「クレジットカードによるお申し込みはこちら」へお進みください。

<年会費> 一般会員： 3,650円/年  
学生会員： 1,825円/年  
法人会員： 36,500円/年



<振込先口座>

ゆうちょ銀行（銀行コード9900）

支店名：〇一八（ゼロイチハチ）

口座名義：NPO法人 メータオ・クリニック支援の会  
（カタカナ） トクヒ）メータオ クリニックシエンノカイ

口座番号：10140-8960841

\*他行からのお振込みの場合 普通 0896084 (写真：渋谷敦志)

※ 当会が入金の確認をもって手続き完了となります。メールにてお知らせいたします。

#### ■注意事項

- ・住所、氏名、メールアドレスに変更がある場合、振込名義がご本人でない場合は、事務局 ([support@japanmaetao.org](mailto:support@japanmaetao.org)) までご連絡ください。

## 現地（メソト）から

【有高 奈々絵】

皆さま

いつもご支援ありがとうございます。2020年1月よりメータオ・クリニックでボランティア医師として勤務しております、現地派遣員の有高奈々絵と申します。2017年にJAMのスタディツアーでメソトを初めて訪れた時は、2年半後にこの地で暮らすとは思っていませんでしたが、2018年に血液内科医として十数年勤務した病院を退職した後、縁あってメータオ・クリニックで働かせていただくこととなりました。

1月半ばにバンコクに到着し、日本大使館に昨年出版された「国境の医療者」と今年のJAMカレンダーを持ってご挨拶に伺いました。人生初の表敬訪問で緊張しましたが、医務官や書記官の方々に温かく迎えていただき、特に2013年に資金協力をしていただいた草の根・人間の安全保障無償資金協力の担当者の方はメータオ・クリニックのことをよくご存じでした。

1月下旬からメータオ・クリニックの成人病棟（内科と外科の混合病棟）の主に内科部門での勤務を開始し、現在ちょうど3週間経ちました。JAMの現地派遣員は1年ほど不在でしたが個性豊かな歴代派遣員のおかげで、私がJAMのメンバーと自己紹介するとクリニックのスタッフはみんな声を上げて喜んでくれ、歓迎されているのを実感します。勤務を始めた週に支援者の方から昨年12月に寄付していただいた聴診器、血圧計、体温計を物品管理担当者のサベルさんに手渡しました。今後不足している部署で使用される予定で、部署が決まりましたらまた会報上でご報告させていただきます。

業務に関してはまだ、少しずつメディックや患者さんたちとのコミュニケーションの取り方、限られた医療資源の中での診断や治療の方法を学んでいる段階です。毎日30人ほどの入院患者さんを一通りみて回り、重症あるいは診断の定まっていない患者さんを重点的に診察

するように心がけていますが、忙しいメディックにずっと一緒にラウンドしてもらうのは難しく、一人の時はナーラー？（痛い？）やチャンソーラー？（咳が出る？）といったごく基本的なビルマ語の単語を並べて患者さんと意思疎通を図っています。どこまで分かり合えているか不安ですがビルマ語のグーグル翻訳はまず役に立たず、もちろんカレン語には対応していません。まずは簡単なビルマ語を身に着けることが急務で、少しずつメディックに教えてもらっています。ほとんどの患者さんはかなり体調が悪くても笑顔を見せてくれ、ご家族は遠くから椅子を持ってきてくれたりと、その親切さに癒されます。

メディック、特に 10 年、20 年とメータオ・クリニックで勤務しているシニアメディックは現地でよく見られる疾患について非常に知識や経験が豊富で、私がこんな大雑把な治療で大丈夫なのか、この人は明日まで持たないのではないかと思った患者さんが意外に翌日持ち直していることが多く、ここはここのやり方で結構うまく回っているのだと感じ入ります。衛生や栄養、医療のすべてが不十分な中で生きてると人はたくましくなる、たくましい人だけが生きていても思われ、ここの患者さんたちは super strong だとイギリス人ボランティア医師といつも言い合っています。

もちろん重症感染症などで亡くなる方もおり、先日は呼吸状態の非常に悪い、ほとんど虫の息の患者さんが自分の村で亡くなるために退院していきました。車を手配し国境の川を超えてミャンマーの村まで戻るのに 3000 バーツ（約 1 万円）かかるそうで、合法移民の日給が 300 バーツ、不法移民の日給が 100 バーツとのことです。相当な出費のはずです。3000 バーツ払えるならミャンマーの病院に入院した方が良かったのではと思いましたが、病棟責任者のタイタイさんによると政府系の病院にはかかりたくない、ミャンマーの病院ではメータオ・クリニックのように患者さんに親切に説明しないなどの理由でここに来る方が多いとのことで、日本人には想像しにくい事情が国境にはまだまだあるようでした。タイタイさんが患者さんのご家族に長い時間をかけて病状を説明しており、このような対応がミャンマーの病院では少ないのかもしれませんが。

感染症以外にも肝硬変のような根本的治療のない慢性疾患、あるいは先進国であれば標準的な治療で高率に治癒するタイプの悪性腫瘍にも、ここでは最低限の対症療法しかできません。急性リンパ性白血病と思われる 20 歳の患者さんも、自分の村で輸血だけ行う方針で退院していきました。私が以前勤務していた病院では考えられないことですが、ここでは誰もが仕方がないと受け止めているようでした。このギャップは当然のことで理解しているつもりでしたが、実際目の当たりにすると少しでもできることはないのかと考えあぐね、そのうちに患者さんがいなくなるということがすでに何回もありました。

悪性腫瘍の治療は夢のような話ですが、限られた医療資源、減少する予算の中でも何か現地の人々に長期的にプラスになることができないか、まずそれを探ることが私にとっての一仕事になりそうです。まだ JAM としてのプロジェクトや特定のテーマがあるわけではなく、目の前の患者さんにひたすら追われている日々ですが、少しずつクリニック内外のシステムやコミュニティにも目を向けていければと思います。

余談ですが日本でも問題になっている新型コロナウイルスについて。2 月 14 日現在のタイ国内の感染確定例は 33 人、国内でのヒトーヒト感染も確認されています。

メソトの中核病院の発表ではメソトでの確定例はないとのことですが、メソトから10Kmのミャンマー側の町ミャワディには中国人観光客の集まるカジノがあり、ミャワディに隣接して多くの中国人労働者が住む町もあります。ミャンマーでの確定例はゼロのようですがタイ-ミャンマー国境はハイリスクエリアと考えられ、メータオ・クリニックでも臨床コンサルタントのカシム医師を中心に緊急対応マニュアルの作成が進められています。セレモニー用のホールを隔離室にする（ホールに一応ドアはあるが内部に仕切りはない）、ホール脇のトイレ周辺までをバッファゾーンにする（と言っても周囲との仕切りはない）など、やむを得ないのですがやや不安な内容です。思わずカシム医師に、もし本当にアウトブレイクが起きたらタイ政府は物資なり人員なりを送ってくれると思うかと尋ねたところ、軍が来てクリニックごと封鎖されるかもね、とのお返事でした。本当にそうかは別として、ここは特殊な場所だった、と再認識した一言でした。

最後に、私が現地で活動できているのは皆さまの物心両面のサポートがあればこそで、心より感謝申し上げます。今後とも宜しくお願いいたします。



寄付していただいた血圧計などを贈呈しました



成人病棟のメディック達と



大使館の方々と

（上記写真に関しては、掲載許可をいただいております）

国内から

【金崎 隆宏】

みなさまこんにちは。メータオ・クリニック支援の会（JAM）でボランティアとしてお手伝いをさせて頂いている金崎と申します。JAMとの繋がりは増上寺でのミャンマー祭りがきっかけでした。今回、このような場をいただいたことに感謝しております。会報執筆は初めてですが、やはり現在流行している新型コロナウイルスについての状況と公衆衛生の大切さについて、述べたいと思います。

ご存じの通り、中国湖北省武漢を発生源とした新型コロナウイルス（COVID-19）の脅威が世界各地を襲っています。中国では、ほんの1か月前まで普通の生活をしていた市民が、今では多くの都市で大混乱が生じ、その感染の広がりには驚きの連続です。特に、感染初期に対応していた中国の医療関係者は、想像を絶するくらいの大変な事態であったでしょう。私は医療従事者ではありませんが、一人の国民として医療体制の重要性と感染症の脅威をまざまざと実感しています。

今年はいよいよオリンピックの年ですが、過去のオリンピックでも感染症のトラブルが相次いでいます。前回のリオオリンピックではジカ熱が問題となりました。ジカ熱そのものの毒性は強くありませんが、妊婦が感染すると胎児に小頭症などの重大な影響を及ぼす危険性があり、妊娠中の方は特に注意が必要でした。今回の新型コロナウイルスについても、肺炎以外の症状についても調べていく必要があります。

発生源の中国の対応は、かなり徹底しています。初動対応が遅れ、感染拡大したのは事実ですが、その後、武漢を含む湖北省の封鎖（鉄道、道路を遮断し、ごく限られた人のみしか外出できない。）、北京などその他の都市では、他都市から移動した人は12日間外出禁止などを実施しており、市内の至るところで体温検査が行われています。（2月14日現在。国内ニュースや在中国日本人などの情報をもとに作成。）中国での封じ込み対応の効果を検証し、日本でも新たな手段を講じる時期に来ていると思います。

さて、少し話は変わりますが、私の仕事についても少し触れておきたいと思います。私は現在、水道の水質検査の仕事をしています。水道はもともと伝染病防止・保健衛生の観点から発達しました。水道の歴史は古く、江戸時代にまでさかのぼります。当時は、川から町まで水を運ぶ役割を果たしていたといわれています。近代水道が広まるきっかけは、明治に発生したコレラの大流行だといわれており、水系感染症の予防がいかに重要だったかがわかります。

現代においても、未知のウイルスを予防するには、手洗いやうがいなどが最も重要だといわれています。それは、日本なら学校で当たり前で教わることで、日本人がきれい好きなのも、先人がいかに公衆衛生を大切にしていたことの表れかもしれません。

日本においても、パンデミックをぎりぎりのところで食い止めており、(残念ながら2月14日現在では状況が変わりつつあります) 予断を許さない現状ですが、今回のウイルスを教訓に、JAMが行っている公衆衛生がいかに大切か、一人の日本人として実感しました。

## 国境の医療者 全国の書店で絶賛発売中！

メータオ・クリニック支援の会(JAM)が設立10周年を記念して出版した『**国境の医療者**』は、引き続き全国の有名書店店頭等で絶賛発売中です！

全国の多数の自治体図書館にも置いていただいているとも聞いています。おかげさまで多くの皆様に読んでいただき、大変ありがたく思っております。

「国境の医療者」のPR動画はコチラ↓

<https://www.youtube.com/watch?v=IWgU6bEo4kM>

まだご覧になっていない方は、ぜひご覧ください！  
熱い思いが詰まっています。



## 編集後記

しばらく不在だった現地派遣員ですが、年明けから派遣再開となりました。今回は、医師が現地で活動をしていきます。有高医師は、スタディツアーの参加を機にJAMの活動に参加するようになり、今回の派遣となりました。もともと専門は血液内科医ですので、現地では主に内科分野で診察をしたり、歴代の派遣員が積み重ねてきた学校保健などの活動にも引き続き取り組んでいきます。

今後、会報(2か月に1回)等でタイムリーな現地からの情報をお届けしていきますので、どうぞお楽しみに！

## 次号の予定

次号は、4月中～下旬ごろ配信の予定です。

現地からの最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきます

のでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。

支援の輪が広がっていきけるよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年      【学生会員】1,825円/年      【法人会員】36,500円/年

当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。



**NPO法人メータオ・クリニック支援の会      Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)**

日本事務局宛て Eメール	support@japanmaetao.org
JAMウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。 <a href="https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/">https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/</a>
Instagram	<a href="https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/">https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/</a>
Twitter	<a href="https://twitter.com/japanmaetao">https://twitter.com/japanmaetao</a>

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

